

2018年度（平成30年度）

本報告書は、学校法人福岡保健学院 福岡看護専門学校第2科の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

学校関係者評価 報告書

2019年7月1日

学校法人福岡保健学院
福岡看護専門学校第2科

学校長 松原 孝俊

学校評価実施責任者
副学校長 淀川 めぐみ

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生募集
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅷ 法令等の遵守
 - 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所属 ※	選出区分
西村 由紀子	純真学園大学 保健医療学部 看護学科長 教授	専門家等評価委員
早川 明美	福岡和白病院 看護部長	企業等委員
跡部 秀之	福岡県立福岡魁誠高校 学校長	高校等評価委員
後藤 歩	福岡県済生会二日市病院 看護師	卒業生委員
阿部 正剛	福岡市議会議員	地域委員

敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

- 第1回委員会 日 時:平成30年9月26日(水) 15:00~17:00
場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)
- 第2回委員会 日 時:平成31年3月13日(水) 15:00~17:00
場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)

4) 学校関係者評価の実施

平成30年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果及び内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

学校の教育理念に沿った教育目的・目標はホームページ、学校パンフレットで公表している。学生には学生便覧に教育理念、目的、目標を明示しており、各学年の開始時や臨地実習のオリエンテーションで意識できるよう説明している。実習施設には、実習要項を用いて実習目標と実習内容を説明している。また、実習指導者会議等で教育理念を踏まえた学習修得の依頼をしている。

卒業時満足度調査では、「専門的な技術が身につく授業であり満足している」と答えた学生が95%であった。

課題及び今後の改善方策

第2科の学生の学習の把握やイメージする人間像について、どのようにイメージしているかを明示する必要があると意見を頂いた。第2科の学生の学習の把握やイメージする人間像についての明示を検討する。

学校関係者評価委員会からの意見

学生の満足度は高いが、第2科の場合は准看護師課程の教育背景が多様と考えるため、その把握と具体的な人間像をどのようにイメージしているかをどこかに明らかにしているか。なければ明らかにする必要がある。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教育理念に沿った教育目的・目標はホームページや学校パンフレットで公表している。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

広報の一環として、毎年九州圏内の准看護師養成校を訪問している。その際、パンフレットを用いて、教育理念や科の特性について説明している。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、シミュレーターを用いた演習を取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

福岡保健学院の事業目標・学校の事業方針をもとに、管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組んでいる。

学校組織と諸会議規定は明確になっており、就業規則、学生便覧に示されている。規則については、諸規定に定められており、教職員にも周知されている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、委員会の運営は規定通りに実施されている。また、議事録を作成して周知されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

諸規定は各科で保管しており、閲覧できるようになっている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学事システムや共有フォルダを使用し、学年運営に活用している。

項目III 教育活動

総括

学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。

授業評価については、外部講師は終講時に許可を得て学生からの評価をとり、結果を講師へ返している。内部教員も終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。

国家試験合格に向けた取り組みとして、年間計画を立てて、各学年計画的に模擬試験を実施している。

卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」と答えた学生が84%であった。

課題及び今後の改善方策

卒業時満足度調査で「国家試験対策、学習支援に満足している」でマイナス意見のコメントはなかったが、就業している学生であるため、学業と就業の両立に負担を感じていた学生からマイナス評価があったと予測される。

今後、国家試験対策として、学習の必要性についての説明を十分行い、個別の相談にも積極的になるように働きかける。また、可能な学生は保護者への協力依頼を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

第2科の場合は准看護師課程の教育背景が多様と考えるため、その把握と具体的な人間像をどうイメージしているかをどこかに明らかにしているか。なければ明らかにする必要がある。

卒業時満足度調査で、満足度が低い理由に対する改善の課題が必要と思われる。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

専門性の高い看護技術に関しては、演習を交えた講義を行っている。臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記しており、教育方法の共有を図っている。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

授業評価をもとに、次年度に向けて改善できるよう取り組んでいる。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

国家試験合格に向けて、年間計画を立てて取り組んでいる。1年次: 模擬試験2回と振り返り学習。2年次: 模擬試験2回と振り返り学習、研修時間を用いて国家試験問題に取り組む。3年次: 模擬試験(月1回)、夏季・冬季セミナー、特別講義、対象学生への個別学習を実施した。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取り組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

研修参加の費用負担が学校規定で定められており、教員は計画的に研修に参加し、学生教育に役立っている。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職支援として、定期的に個人面談を実施して相談・支援を行い、卒業時全員が就職決定した。関連病院への就職率は32%で、関連施設が求めている人数は満たしている。しかし、卒業時満足度調査では、「就職活動や進学に関するサポートに満足している」と答えた学生が72%で、平均よりやや低かった。学生のコメントより、相談窓口が明確でなかったことと、併願に関することが挙がっていたため、次年度に向けて対策を立てて取り組んでいく。

国家試験合格に向けて、成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。3年連続で看護師国家試験合格率は100%である。

各学年、年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学生の状況により、相談にのるようしており、保護者との連携も図るなどして、退学率の低減に努めている。しかし、今年度の3年生の退学率は12%で例年(6.5%)と比べると高かった。しかし、退学理由として、私事が多かった。

課題及び今後の改善方策

1. 就職に関するサポートについて、対策を立てて取り組む必要がある。
卒業時満足度調査の「国家試験対策、学習支援に満足している」の項目で満足度が低かった理由として、学習方法に関する内容が考えられる。
国家試験対策として、教科外での学習が必要となる学生もいるが、就業しながら学習しているため、負担を感じる学生もいる。
今後も学生への説明を十分に行い、理解を得たうえで学生個々の状況に応じて対応していく。
2. 退学率低減に向けた関わりを今後も継続し、退学率低減に努める。
個別の関わりを継続し、早めのサポートや保護者との連携を強化する。

学校関係者評価委員会からの意見

同課程での休学や留年、退学率の平均がデータとしてあれば評価しやすい。また、当校の年度別推移で分析するとより状況がわかりやすい。

小項目Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は、平均点より0.2低い結果であった。

小項目Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

卒業時満足度調査では、「国家試験への対策、学習支援に満足している」と答えた学生が84%であった。

小項目Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

学生の状況に合わせた対応を行っているが、今年度の3年生の退学率は例年と比較すると高かった。しかし、退学理由として、私事が多かった。

小項目Ⅳ-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：B ■学校関係者評価：適正

■コメント

卒業後の活動把握については、関連病院や実習施設に就職した卒業生の把握は行えている。しかし、それ以外の卒業生の把握は不十分である。

項目Ⅴ 学生支援

総括

学生相談については、クラス担任が主で行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。学生には相談等がある際はいつでも教務室へ来て構わないことを説明しており、教員は学生が相談しやすい雰囲気を中心掛けている。スクールカウンセラーを2名(非常勤)配置しており、カウンセリングが必要と考えた学生については、学生に合ったカウンセラーを勧めている。カウンセラーとは必要時情報交換を行い、学生支援に繋げている。保護者との連携が必要な学生に関しては、学生に了解を得て保護者に連絡を取り、学生支援を行っている。また、前期・後期で、学生の成績表を保護者に郵送しており、成績表と共に学生の学校生活状況の報告を行っている。

その他、奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。また、殆どの学生が就業しながら学校に通っているため、状況に応じて車通学を許可している。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

保護者に学生の状況を知らせる機会を検討する。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

進路については面談と定期的な調査で把握し、進路に悩んでいる学生に関しては、個別の相談にのるようにしている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

卒業時満足度調査では、「教職員の学生への対応に満足している」の結果は、そう思うが全体の98%(とてもそう思う23%、そう思う75%)であった。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：ほぼ適正

■コメント

保護者との連携が必要と考えた学生に関しては、早期に保護者と連絡をとり、学生の悩みの本質を理解して関わった。

退学の意味表示があった学生についても、保護者と連携して、3名の学生が学業継続に繋がった。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

毎年、九州圏内の准看護師養成校の学校訪問を実施して広報活動をしている。今年度は42校訪問した。学校訪問の際には、在校生の様子を伝え、准看護師養成校と情報交換を行っている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。

就業している学生であるため、通学の相談にのり、必要な学生には車通学を許可している。

項目 VI 教育環境**総括**

トイレのハンドドライヤー、ウォシュレット、講師室の改装を行い、学内の設備は整備されている。3月にWi-Fi環境が整い、学生が使用するコピー機をカード式とし、価格を下げることで学生の経済的負担軽減に繋がった。図書室には古い図書もあり、学生や教員の意見を取り入れながら図書の内容を少しずつ新しくしている。これらにより、学習環境の整備に繋がっている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

ハード面については、予算との関係があるため、財務と併せて計画的に取り組む必要がある。学生・教員の緊急連絡体制の明示。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

卒業時の満足度調査では、「パソコン・インターネット等の譲歩整備や利用環境に満足している」と答えた学生が79%であった。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

主たる実習施設では、学生ロッカーの買い替えや学習しやすい環境を整えた。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

毎年学生、教職員で防災訓練を実施している。災害時の行動については、学生便覧に記載し、学生に伝えている。各学年の緊急連絡網を作成し、学生にも周知している。教員に関しても連絡網を作成している。

項目VII 学生募集

総括

毎年、九州圏内の准看護師養成校を訪問し、学校紹介と学生の募集活動を行っている。今年度は42校の学校訪問を実施した。学校説明会は学校と九州6県で実施した。学校説明会の参加者は61名で、うち38名が受験している。入試の問い合わせがあった場合には、教員が返答できるよう必要事項の共有を行い対応している。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

准看護師養成校の学校訪問は、毎年実施しており、准看護師養成校の先生との関係構築に努めている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

募集活動では、学校パンフレットを用いて説明している。その際に、本科の特徴を伝えるとともに、国家試験の合格率、就職率や就職状況などを伝えている。

項目VIII 財務

総括

中長期的な計画の下、学校運営され、収支は安定している。
教育事業の方針を基に、各科から希望を出し、予算を編成している。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VIII-1

中長期的な計画の下、学校運営され、収支は安定している。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

中長期的な計画が示され、示された収支から安定している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

予算は事業計画と本校の方針に従い、各科からも希望を出している。学校の予算は本部で集約される、本校の予算が立案されている。

決算の管理は管理部門で確認されており、会計監査も受けている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。教職員の休憩室にハラスメント委員の連絡先が書かれたポスターが掲示されている。また今年度、ハラスメントに関するアンケート調査が実施され、結果の開示も行われた。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生、実習施設にも提示している。実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

総括

学校施設は関連施設の研修や会議に使用している。図書室は卒業生も使用できるようにしている。ボランティアに関しては、働きながらの学生であるため、参加は難しいが、ボランティアの募集がある際は学生に呼び掛けを行っている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

働きながらの学生であり、ボランティア参加が必ず必要とは考えなくてよいのではないか。

小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校施設は関連施設の研修や会議で使用できるようにしている。

小項目 Ⅹ-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

年度初めの個人面談でボランティア活動の状況把握を行っている。ボランティアの募集があれば、学生にも伝えている。